

雑居の時代

にあふれている。場末の街に人が多く、そこ生活してるといふうのだ。日本の千野球をやっているかきりは、利根川氏が日本にいたから決してノーベル賞にならなかつたであろうということである。そのうちアメリカの三Aクラスの球団がそっくり日本に移籍して日本のプロ野球でのごとくはない。(アメリカン)

外人パワーを導入した方が活気が出てくるのは、外

が急速にくずれ、雑居の時代になってきた。いとも悲しいもなく、この勢いはますます進行する。

日本人の力が上、ホームランが打てるからというだけにとどまる問題ではない。一ベル賞受賞では七人目とはしゃぐのは、人種的視点でしかものを見ていない。今度の場事で一番確かなのは、利根川氏が日本にいたから決してノーベル賞にならなかつたであろうということである。そのうちアメリカの三Aクラスの球団がそっくり日本に移籍して日本のプロ野球でのごとくはない。(アメリカン)

を泉に

高子 若林

文化



樹田 達雄・画

水への愛着を抱く日本の水の恵みについて、

アメリカで日本の水への愛着を抱く日本の水の恵みについて、

改めて考えさせられたのは、えすり、風と水との織りなす微妙な四季の変化……それまじりのころである。ロサであったり前のように見過ごして来た日本古来の自然環境のゆたかさや異国ではなつかし

高級住宅街として有名だが、スプリングラーの撤去原案なのかもしれないと思

（さんすい）でかろうじて生きていく、荒々しくて単純、日本の水に対して愛着を

な、いかにもアメリカらしい持つようになった。

自然環境の中で、人々は緑をつくるために涙ぐましい努力を続けていた。

ひるがえって、日本では、やがて、世の中も少しずつ

ももっている。

利根川進氏を日本人のノベル賞受賞では七人目とはしゃぐのは、人種的視点でしかものを見ていない。

今度の場事で一番確かなのは、利根川氏が日本にいたから決してノーベル賞にならなかつたであろうということである。そのうちアメリカの三Aクラスの球団がそっくり日本に移籍して日本のプロ野球でのごとくはない。(アメリカン)

改めて考えさせられたのは、えすり、風と水との織りなす微妙な四季の変化……それまじりのころである。ロサであったり前のように見過ごして来た日本古来の自然環境のゆたかさや異国ではなつかし

高級住宅街として有名だが、スプリングラーの撤去原案なのかもしれないと思

（さんすい）でかろうじて生きていく、荒々しくて単純、日本の水に対して愛着を

な、いかにもアメリカらしい持つようになった。

自然環境の中で、人々は緑をつくるために涙ぐましい努力を続けていた。

ひるがえって、日本では、やがて、世の中も少しずつ

雑誌にヘスの晩年の言行録を掲載

西ドイツ

さきごろ死去したルドルフ・ヘスの晩年の言行録がシュペーゲル誌に掲載されている。フランス人の刑務所牧師が記録したもので、期間は一九七七年から昨年までの水曜日ごとにシュパンタウ刑務所を訪れる牧師に対してナチスの元総統代理ヘスは、一九四一年の自分のイギリスに命がヒトラーとの相談なしに行われたことを明言する。

シュパンタウ内の生活はテレビ室への移動や検閲すみ

金大中氏の自叙伝『獄中記』を出版

アメリカ

十二月の大統領選挙を控えた韓国の第一野党、統一民主

党の大統領候補の一人である金大中氏の自叙伝「獄中記」の英訳版が米国のカリフォルニア大学出版局から刊行された注目をあびている。

内容は彼が光州暴動事件の教唆容疑で死刑判決を受け、一九八〇―八二年に投獄された際に月一回のペースで家族、特に大学生の息子あてに書き送った手紙二十九通からなるもので、伝記というより

新聞の読者も可能で、九十歳を超したヘスは、前首相シュミットへの共感、連邦大統領へのス釈放の呼びかけへの感謝、テレビで流されるアウシユウィッツ記録映画への驚き、ネオナチズムへの激闘心を口にしていく。

この牧師はヘスとねえころになりすぎたという理由で昨年交代させられているが、毎週一時間半の談話がパリの書店から出版されている。ここにはヘスの私生活の中での見解もあらわられていて興味深い。六回も書き改められている。

海外アンテナ

中国の女性革命家 陳碧蘭女史が客死

香港

去る九月初旬、かつて中国の五・四運動に活躍した婦人運動家で、第二次大戦直後には月刊誌「青年と婦女」の主編でもあった一人の女性が香港で客死した。

その名は陳碧蘭。一九〇二年生まれだからもう八十五歳であった。

彼女は、中国共産党創始期の最高指導者の一人であるのに、関係者は彼女の死を悼んでいない。

大陸中国ではいま中国革命史の再検討がすすみつつあり、またゴルバチョフ新体制下のソ連ではトツキー再評価の動きもあるなかで、陳独秀、彭述之ら中国トツキズム運動にも新しい光が当てられようとしている折だけに、

が、本書にはそのうち八編のテキストが収録されている(取められなかったのは微小な差異しか認められないテキストである)。本書をひとくことにより、ブルーストがこの再生(ひびき)の大作の執筆にかけた鬼気迫るような執念を感じ取れるだろう。

注釈も極めて綿密である。二の四分冊の新刊はジャン・リュウ・タチエ氏の手に成るもので、未刊の原稿を大量に収めた校訂本ということができる。例えば、第二編「スワン家のほうへ」冒頭部は千とさけるが、ブルーストの独特の錬金術を解明する上で有益である。(靖)

彭氏が一九八三年に亡くなった。人であり、生涯の同志でもあった。には、理解者たちに囲まれて香港でひっそりと暮らしていた。

大陸中国ではいま中国革命史の再検討がすすみつつあり、またゴルバチョフ新体制下のソ連ではトツキー再評価の動きもあるなかで、陳独秀、彭述之ら中国トツキズム運動にも新しい光が当てられようとしている折だけに、関係者は彼女の死を悼んでいない。(佳)